

## 「うちのちようなんは左きき」

島田 潤

うちのちようなんはじつはぼくです。でもパパはいつもじぶんがちようなんだといっています。なぜならアイスやおかしをたべるときぼくよりいっぱいいたべるしテレビもパパがすきなばんぐみばかり見るからです。それでぼくはパパとけんかをしたり、おこつてぼくがなくときもあります。

でもぼくはパパが大すきです。パパはやさしくておもしろいです。しごとがいそがしくてもじかんがあつたらたのしくあそんでくれるし、ママからおこられていやなときはパパがなぐさめてくれます。

ぼくのパパはあかるくていつもえがおです。でもパパは右手がつかえないしょうがいしゃです。バイクじこで大ケガになって左ききになったのです。それでパパはぼくが赤ちゃんのときめんどろを見るのができなかつたとききました。

たしかにぼくがようちえん生のときとだちのおとうさんたちが「パパ先生」になるためにまいしゅうようちえんにきたけどぼくのパパは一どもきたことがありませんでした。うんどうかいのつなひきもおとうさんたちがさんかしましたがパパはでれなかつたです。そのときはぼくがまだ小さかつたのでちよつとさびしかつたです。

だけどいまはだいじょうぶです。パパとこうえんであそぶときキャッチボールはできないけどバドミントンはたのしくできます。おでかけのときはじてん車はむりだけど車のうんてんはじょうずです。ぼくが赤ちゃんのときはいっしょにふるには入れなかつたけどいまは二人でふるでいっぱいあそびます。

ぼくのパパは左ききなのでこれからもまだできないことがあるとおもいます。でもぼくがどんどんおおきくなるからつだつてあげることもどんどんおおくなるとおもいます。それでこれからぼくがパパの右手になれるとおもいます。

「パパ、これからはぼくがパパの右手になるよ！そしてうちのちようなんはぼくだから、よろしくね！」

## 評価のポイント

構成力・表現力ともに優れており情景が目につく。まるでドラマを観ているよう。